

1 趣旨

この基準は、令和 8 年度高岡市北部地区観光商品造成・情報発信業務の受託候補者選定に関する提案のうち、最も優秀な提案を行ったと認められる者を選定するために必要な事項を定めるものである。

2 評価の方法

一次審査の書類審査においては、各選考委員の評価項目点（「3 評価項目点」参照）が最低基準点を超える提案者のうち、選考委員全員の順位点（「4 順位点」参照）を合計し、順位点の合計が少ない上位 3 者を選定する。

二次審査のプレゼンテーション審査においては、各選考委員の評価項目点が最低基準点を超える提案者のうち、選考委員全員の順位点を合計し、順位点の合計が最も少ない者を受託候補者として特定し、次点者を受託候補者が辞退した場合の予備候補者として選定する。

一次審査及び二次審査の共通事項として、順位点の合計が同点の場合、1 位とした選考委員が多い参加者から上位とする。1 位の獲得数も同数の場合、1.5 位とした選考委員が多い参加業者から上位とし、以降同様により上位の順位の獲得数で選定する。また、順位の獲得数にも差のない場合は、選考委員の評価項目点を合計し、評価項目点の多い参加者から上位とする。評価項目点にも差のない場合は、見積価格の低い参加者から上位とする。なお、一次審査の点数は二次審査に持ち越さない。

3 評価項目点

各評価項目は別表のとおり配点を定め、選考委員が点数を付与する。

4 順位点

選考委員ごとに、各評価項目の評価項目点を合計し、合計が高い順に順位を付し、順位を順位点とする。順位点は、1 位＝1 点、2 位＝2 点、3 位＝3 点とする。なお、合計が同点となった場合は、順位点を按分する（例：1 位に 3 参加者が並んだ場合は、 $(1+2+3) \div 3 = 2$ 点ずつ 3 参加者に与え、2 位が 3 参加者あるものとして扱う）。

【例】二次審査の評価方法

	A 事業者		B 事業者		C 事業者	
	評価 項目点	順位点 (順位)	評価 項目点	順位点 (順位)	評価 項目点	順位点 (順位)
委員 1	60	2 (2 位)	60	2 (2 位)	60	2 (2 位)
委員 2	60	1.5 (1.5 位)	60	1.5 (1.5 位)	55	3 (3 位)
委員 3	50	3 (3 位)	55	2 (2 位)	60	1 (1 位)
委員 4	50	3 (3 位)	60	1.5 (1.5 位)	60	1.5 (1.5 位)
委員 5	65	1 (1 位)	50	3 (3 位)	55	2 (2 位)
委員 6	60	2 (2 位)	65	1 (1 位)	50	3 (3 位)
計	345	12.5 点	350	11 点	340	12.5 点
最終順位	2 位		1 位		3 位	

別表

評価項目	評価の視点	配点基準	配点	
			一次審査	二次審査
実施体制等	業務についての理解度	・業務の目的、内容、手続きの理解度が高く、仕様書に沿った内容となっているか。	5	10
	実施体制、スケジュールの妥当性	・業務を確実にかつ効率的に遂行できる実施体制が整っているか。 ・工程に無理はないか、整合性は取れているか		10
提案内容	受入体制・連携スキームの構築	・観光業が本業ではない地域関係者（職人・寺院等）との合意形成・ヒアリング手法が現実的か。 ・予約管理・精算の一元化（ランドオペレーター窓口業務）のスキームが具体的か。	5	10
	観光商品造成および高付加価値化	・インバウンドFIT層や国内富裕層をターゲットとした、魅力あるコンテンツが提案されているか。 ・外部の旅行会社が扱いやすいモデル周遊ツアーの設計や、適正な収益性を確保できる BtoB 向けタリフ作成方針が妥当か。	5	10
	需要調査・情報発信・検証手法	・需要調査やテストマーケティングの手法が優れているか。 ・具体的な KPI（回答数、アクセス数等）の設定が適正かつ効果的か ・理論的で説得力のある提案か。	5	10
	自走化計画・継続性	・自走化事業計画に実現可能性があるか。 ・次年度の実証実験（モニターツアー等）への連続性・発展性が考慮されているか。	5	10
価格	履行に必要な費用	・費用の算出根拠が明確か。 ・提案内容に対して優れた価格か。	5	10
合計			30	70